

2021/5/17

## 柏の景気情報(令和3年4月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（令和3年4月分）

○ 調査期間 : 令和3年4月26日 ~ 令和3年5月10日

○ 調査対象 : 柏市内130事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	130	94	72.3%
建設	32	18	56.3%
製造	35	25	71.4%
卸・小売	38	33	86.8%
サービス	25	18	72.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.7(前月水準▲30.5)となり、マイナス幅が17.8ポイント縮小した。※今回の業況DIは、比較対象の前年同月(令和2年4月)が感染拡大により全国で緊急事態宣言が発令していた時期であることに留意。

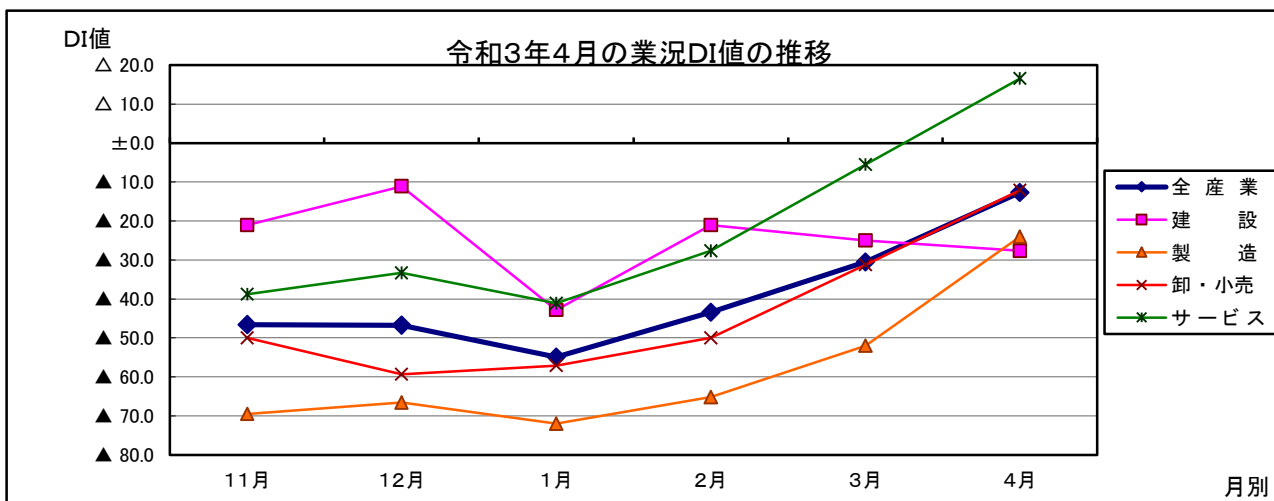
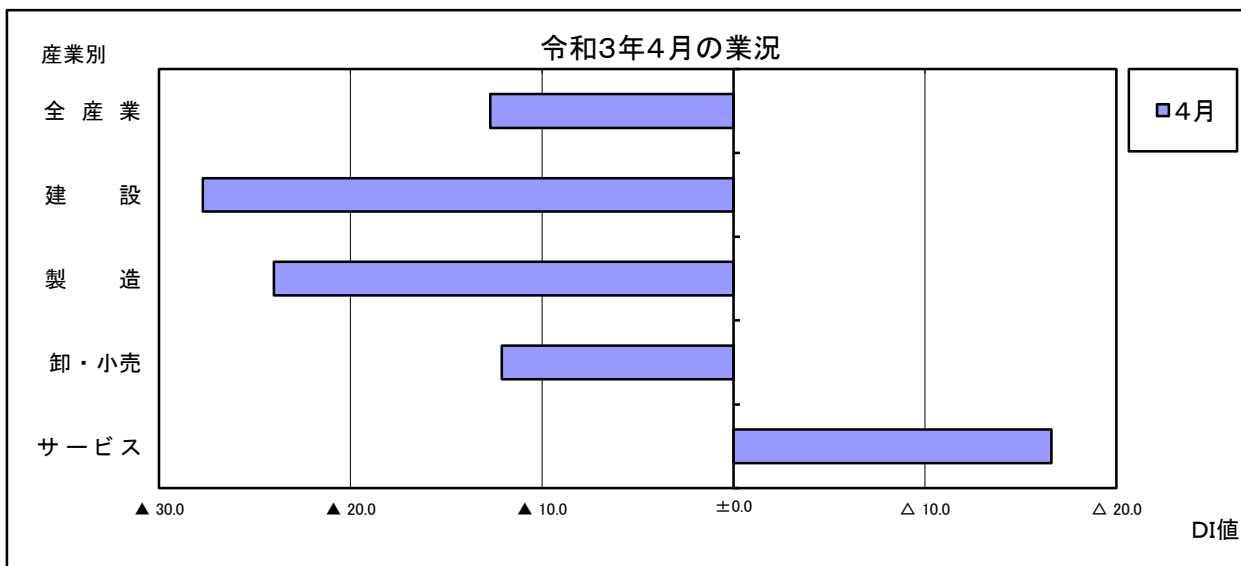
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△16.6(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲24.0(同▲52.0)、卸小売業▲12.1(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲27.7(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.7(前月水準▲11.5)となり、マイナス幅が18.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲16.6(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲44.4(同▲10.0)、製造業▲24.0(同▲8.0)、卸小売業▲33.3(同▲28.1)である。

令和3年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲46.6	▲46.7	▲54.9	▲43.4	▲30.5	▲12.7	▲29.7(▲11.5)
建設	▲21.0	▲11.1	▲42.8	▲21.0	▲25.0	▲27.7	▲44.4(▲10.0)
製造	▲69.5	▲66.6	▲72.0	▲65.2	▲52.0	▲24.0	▲24.0(▲8.0)
卸・小売	▲50.0	▲59.3	▲57.1	▲50.0	▲31.2	▲12.1	▲33.3(▲28.1)
サービス	▲38.8	▲33.3	▲41.1	▲27.7	▲5.5	△16.6	▲16.6(△11.1)



【令和3年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.6(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が8.3ポイント縮小した。

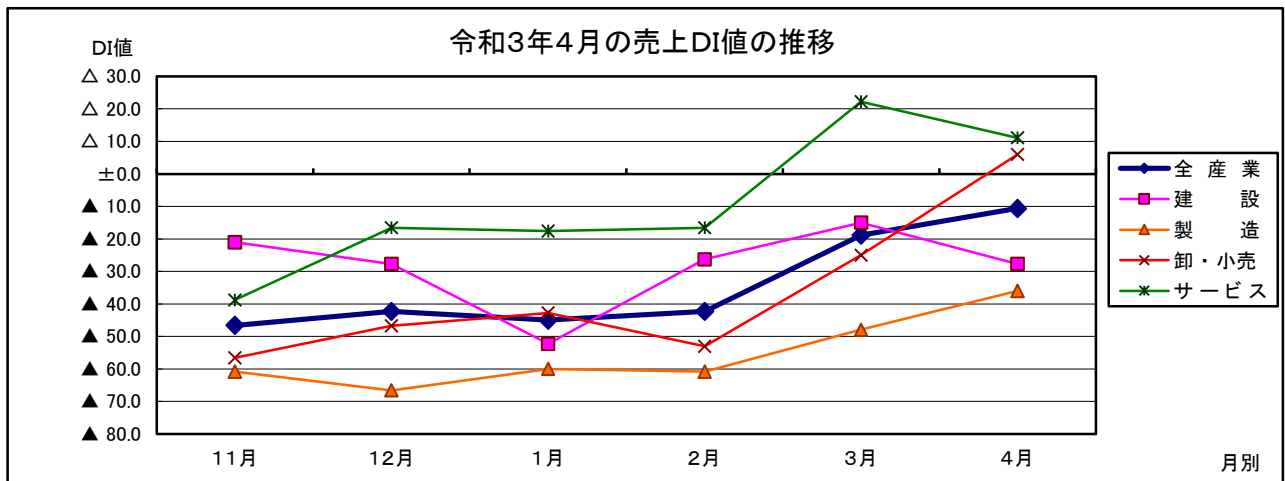
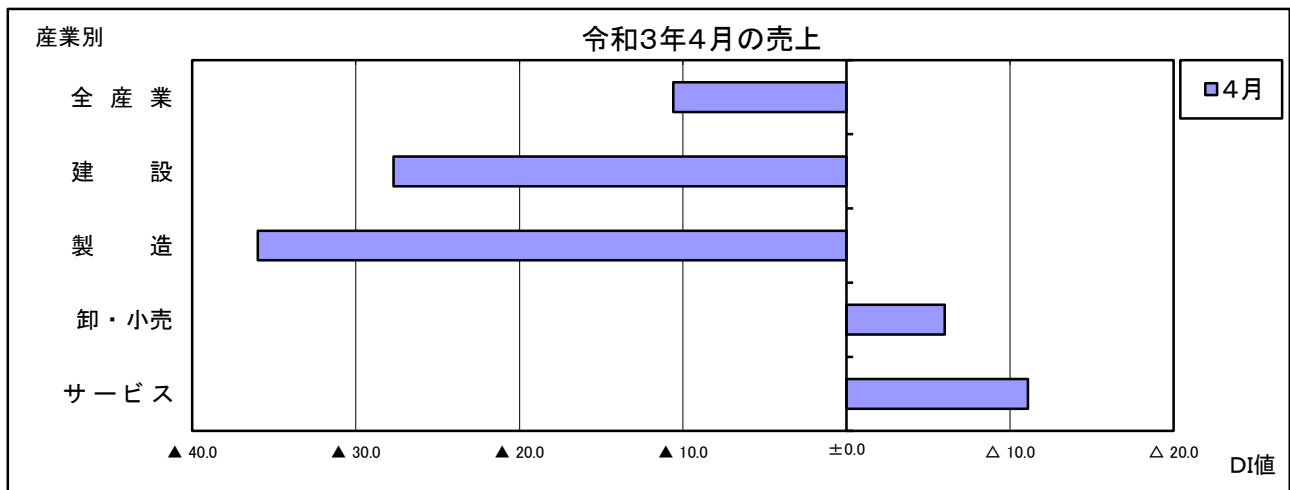
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△6.0(同▲25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造▲36.0(同▲48.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△11.1(同△22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲27.7(同▲15.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.9(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が14.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲22.2(同▲5.5)、卸小売業▲42.4(同▲28.1)、建設業▲38.8(同▲25.0)、製造業▲20.0(同▲12.0)である。

令和3年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲46.6	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲18.9	▲10.6	▲31.9(▲17.8)
建設	▲21.0	▲27.7	▲52.3	▲26.3	▲15.0	▲27.7	▲38.8(▲25.0)
製造	▲60.8	▲66.6	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲36.0	▲20.0(▲12.0)
卸・小売	▲56.6	▲46.8	▲42.8	▲53.1	▲25.0	△6.0	▲42.4(▲28.1)
サービス	▲38.8	▲16.6	▲17.6	▲16.6	△22.2	△11.1	▲22.2(▲5.5)



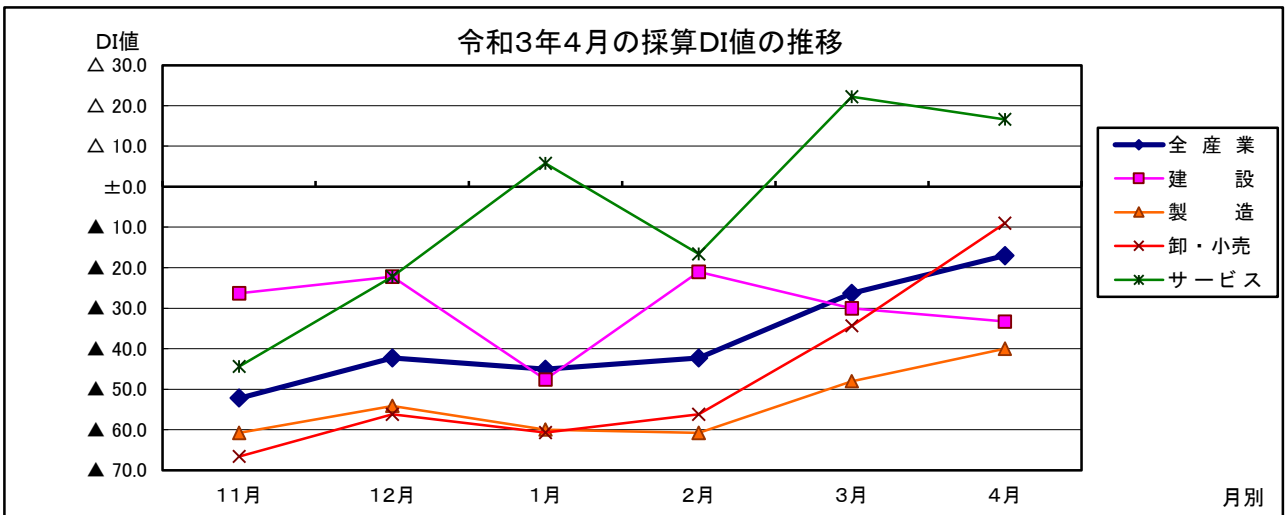
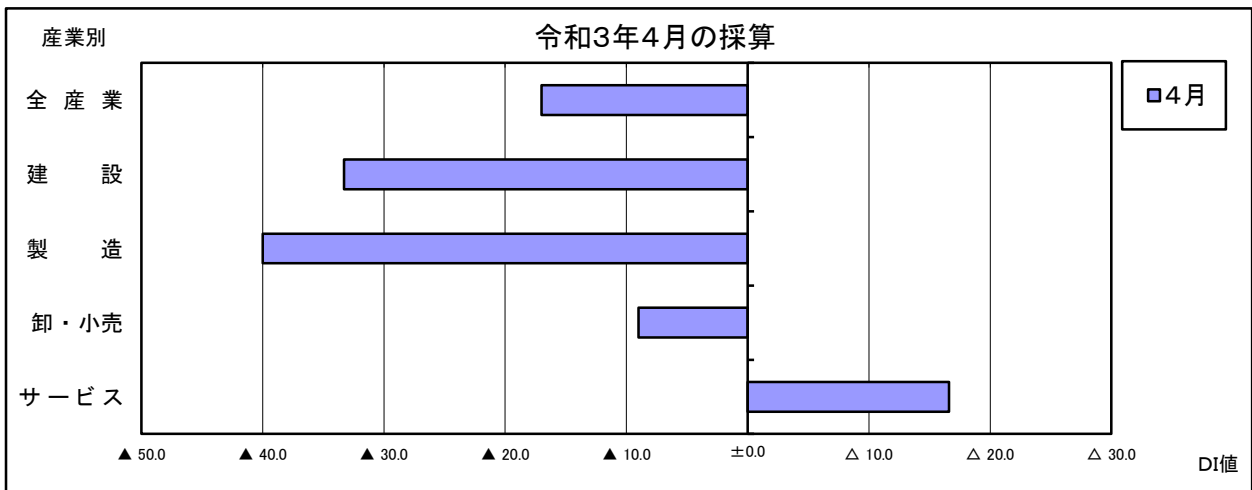
【令和3年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.0(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が9.3ポイント縮小した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲9.0(同▲34.3)、製造業▲40.0(同▲48.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△16.6(同△22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲33.3(同▲30.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.9(前月水準▲17.8)であり、マイナス幅が14.1ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲22.2(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.8(同▲25.0)、製造業▲20.0(同▲8.0)、卸小売業▲42.4(同▲34.3)である。

令和3年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲52.2	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲26.3	▲17.0	▲31.9(▲17.8)
建設	▲26.3	▲22.2	▲47.6	▲21.0	▲30.0	▲33.3	▲38.8(▲25.0)
製造	▲60.8	▲54.1	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲40.0	▲20.0(▲8.0)
卸・小売	▲66.6	▲56.2	▲60.7	▲56.2	▲34.3	▲9.0	▲42.4(▲34.3)
サービス	▲44.4	▲22.2	△5.8	▲16.6	△22.2	△16.6	▲22.2(△11.1)



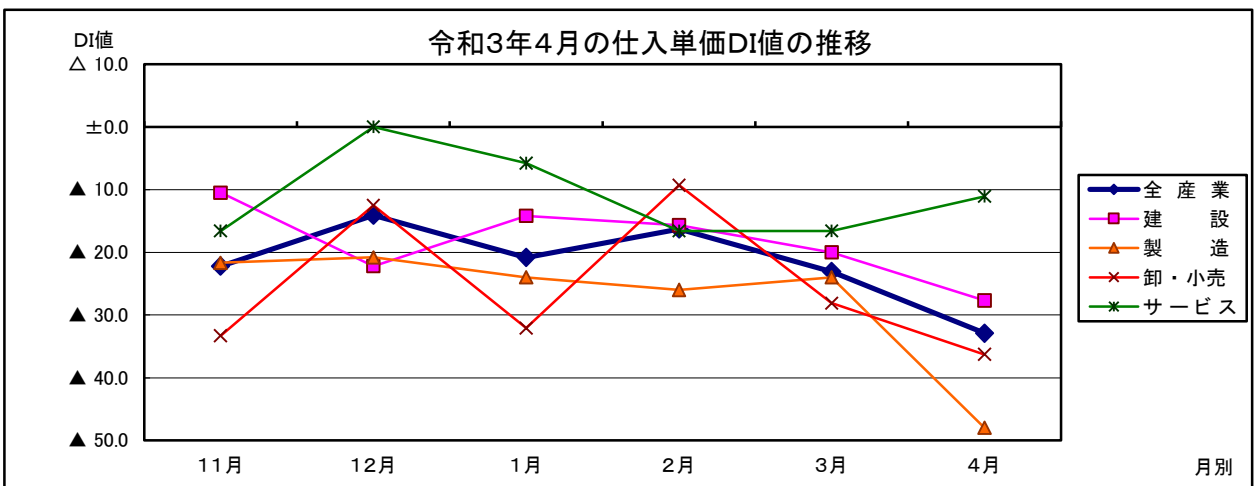
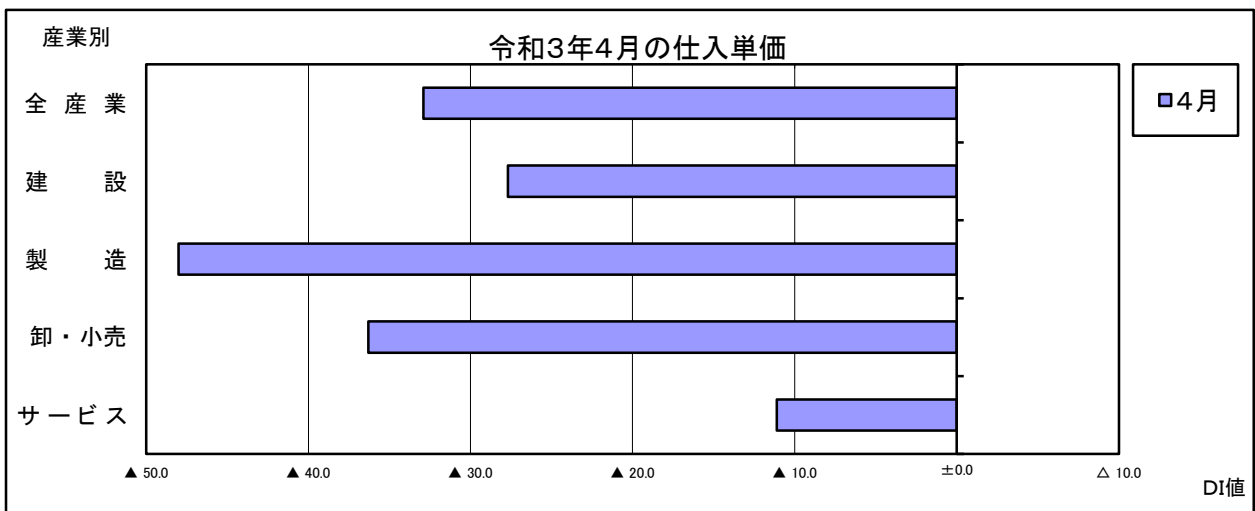
【令和3年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.9(前月水準▲23.1)となり、マイナス幅が9.8ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11.1(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲48.0(同▲24.0)、卸小売業▲36.3(同▲28.1)、建設業▲27.7(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.5(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が5.5ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲21.2(同▲28.1)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲5.5(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲48.0(同▲28.0)、建設業▲27.7(同▲20.0)である。

令和3年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲22.2	▲14.1	▲20.8	▲16.3	▲23.1	▲32.9	▲26.5(▲21.0)
建設	▲10.5	▲22.2	▲14.2	▲15.7	▲20.0	▲27.7	▲27.7(▲20.0)
製造	▲21.7	▲20.8	▲24.0	▲26.0	▲24.0	▲48.0	▲48.0(▲28.0)
卸・小売	▲33.3	▲12.5	▲32.1	▲9.3	▲28.1	▲36.3	▲21.2(▲28.1)
サービス	▲16.6	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲16.6	▲11.1	▲5.5(▲5.5)



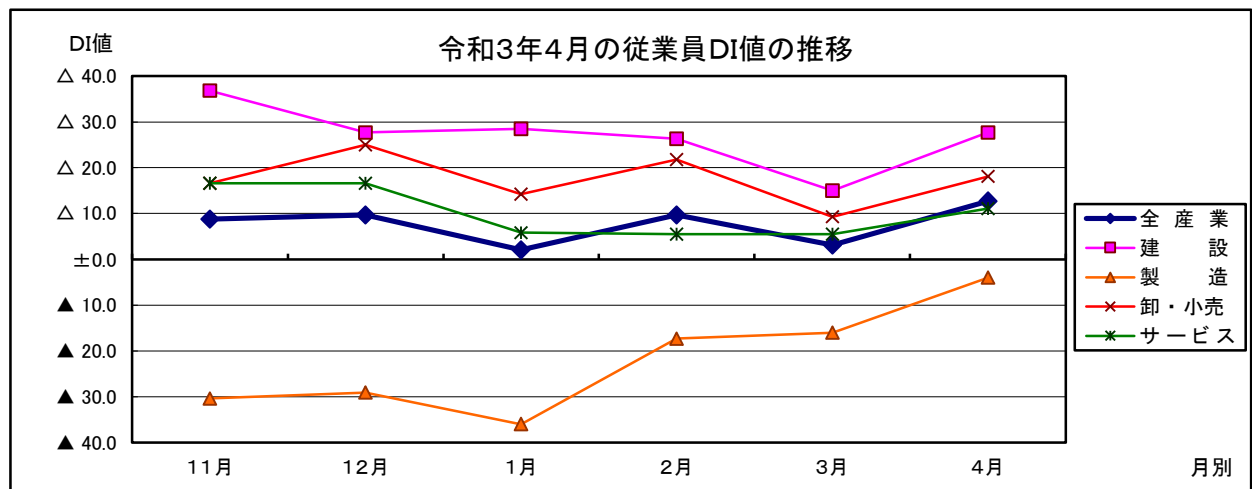
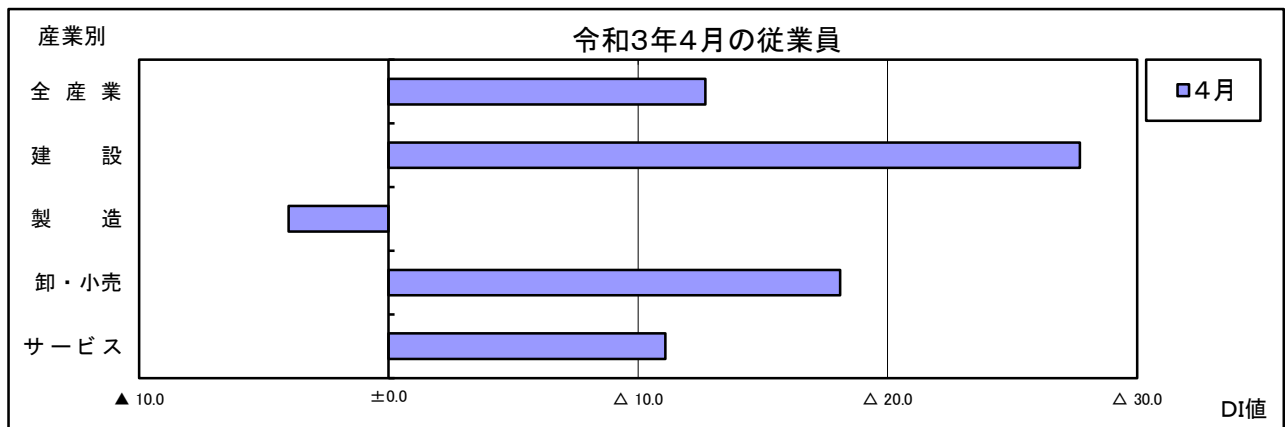
【令和3年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.7(前月水準△3.1)となり、プラス幅が9.6ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△27.7(同△15.0)、卸小売業△18.1(同△9.3)、サービス業△11.1(同△5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲4.0(同▲16.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.6(前月水準△7.3)となり、プラス幅が3.3ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業△18.1(同△6.2)、建設業△27.7(同△20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△5.5(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲8.0(同±0.0)である。

令和3年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△ 8.8	△ 9.7	△ 2.1	△ 9.7	△ 3.1	△ 12.7	△ 10.6 ( △ 7.3 )
建設	△ 36.8	△ 27.7	△ 28.5	△ 26.3	△ 15.0	△ 27.7	△ 27.7 ( △ 20.0 )
製造	▲ 30.4	▲ 29.1	▲ 36.0	▲ 17.3	▲ 16.0	▲ 4.0	▲ 8.0 ( ±0.0 )
卸・小売	△ 16.6	△ 25.0	△ 14.2	△ 21.8	△ 9.3	△ 18.1	△ 18.1 ( △ 6.2 )
サービス	△ 16.6	△ 16.6	△ 5.8	△ 5.5	△ 5.5	△ 11.1	△ 5.5 ( △ 11.1 )



【令和3年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.7(前月水準▲13.6)となり、マイナス幅が1.9ポイント縮小した。

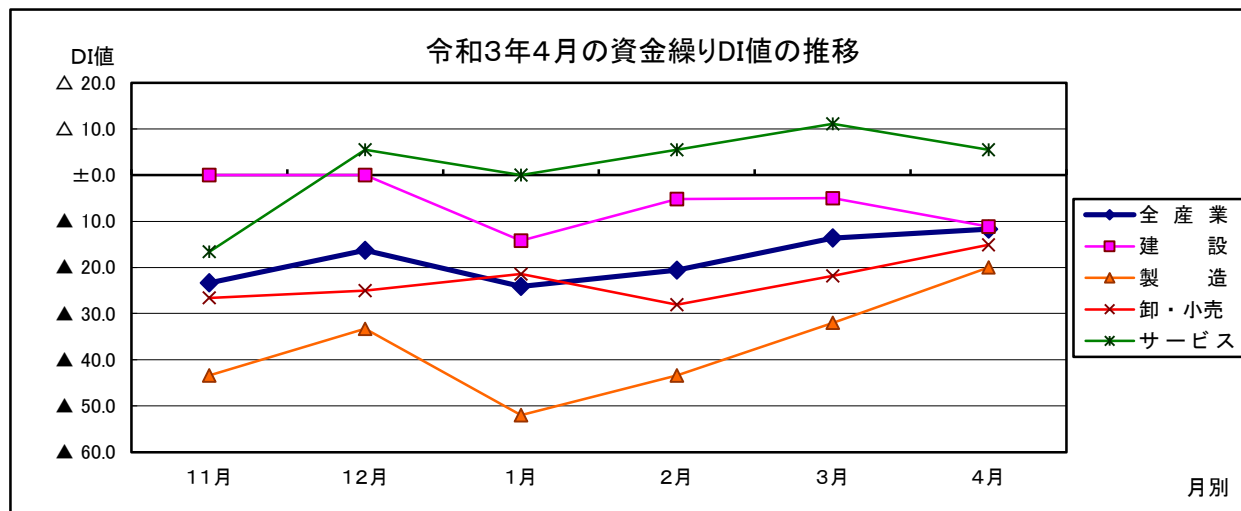
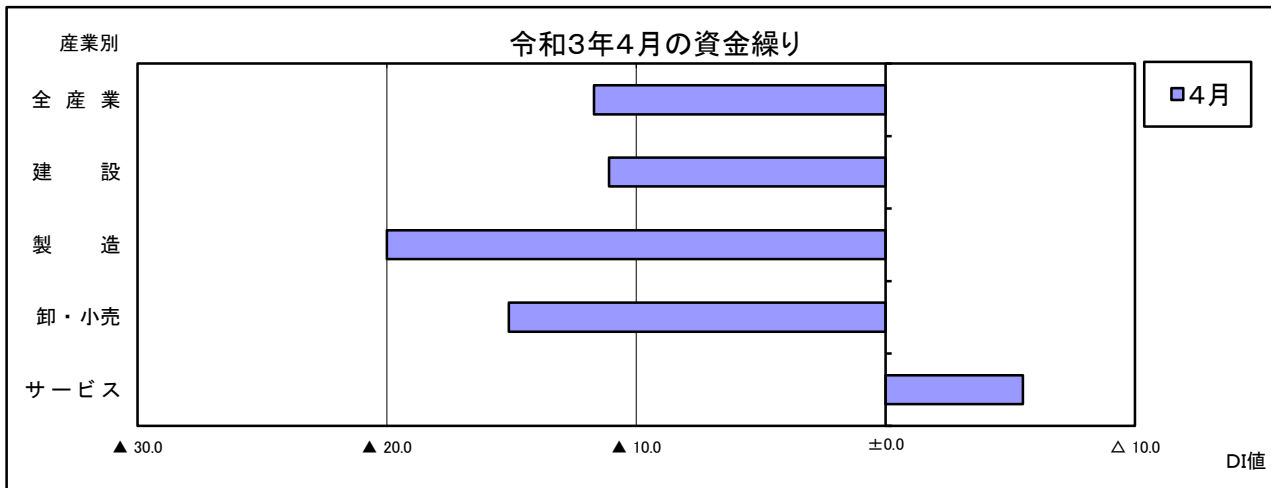
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲32.0)、卸小売業▲15.1(同▲21.8)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△5.5(同△11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲11.1(同▲5.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.2(前月水準▲7.3)となり、マイナス幅が13.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲24.2(同▲25.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲11.1(同△22.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲16.6(同±0.0)、製造業▲28.0(同▲16.0)である。

令和3年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲23.3	▲16.3	▲24.1	▲20.6	▲13.6	▲11.7	▲21.2(▲7.3)
建設	±0.0	±0.0	▲14.2	▲5.2	▲5.0	▲11.1	▲16.6(±0.0)
製造	▲43.4	▲33.3	▲52.0	▲43.4	▲32.0	▲20.0	▲28.0(▲16.0)
卸・小売	▲26.6	▲25.0	▲21.4	▲28.1	▲21.8	▲15.1	▲24.2(▲25.0)
サービス	▲16.6	△5.5	±0.0	△5.5	△11.1	△5.5	▲11.1(△22.2)





【令和3年4月の調査結果のポイント】

《全産業DIは改善も予断許さず。感染拡大やまん延防止等重点措置の延長により、先行きも厳しい見方》

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.7(前月水準▲30.5)となり、マイナス幅が17.8ポイント縮小した。※今回の業況DIは、比較対象の前年同月(令和2年4月)が感染拡大により全国で緊急事態宣言が発令していた時期であることに留意。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業▲16.6(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲24.0(同▲52.0)、卸小売業▲12.1(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲27.7(同▲25.0)である。

不動産業からは住居の住み替え需要が増加しており好調のコメントが寄せられた。一方で、テレワークの定着・ZOOMなど非接触営業による商談の遅れや反応の鈍さ、まん延防止等重点措置の実施等により、飲食店からはGWの予約キャンセル続出、ホテル業からは稼働率の低下についてコメントが寄せられた。また、製造業では原材料の不足、値上げについてコメントが多い。先行きDIは▲29.7(今月比▲17)と、感染拡大、まん延防止措置の延長により厳しい見方である。

【建設業】からは、「外出自粛によるコミュニケーション不足は情報収集不足に直結していると感じる。民間工事の発注数は昨年、一昨年に比べて少ない」(塗装工事)、「初年度の仕事が早く、仕事の切れ間が少なくて済む」(土木工事)、「働き方改革を押し進め、4月は週休2日を取ることができた」(畳)、「コロナの影響で、室内リフォームが少ない。外部の仕事は変わらない」(職別工事)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「社員、パートともにベースアップを実施しモチベーションアップを図る。材料は入手困難で、単価は上昇傾向。従業員全員に万歩計を配布して健康増進を楽しみながら進める」(金属製品)、「引き合いはあるが、なかなか受注につながらない。顧客の担当者が在宅ワークでタイムリーな連絡が取れず、商談が全体的にスローダウン」(電子応用装置)、「リスクが多方面に増加し、BCPの必要性が大きくなると思う」(金属素形材製品)、「口紅容器の受注が全く回復しない。コロナの影響で顧客の生産ラインの人員が集まらず、頼みの綱の医療品容器も受注に至らない」(プラスチック加工)、「インバウンド頼みの業績悪化による影響が大きい。食品では内食が伸びている。先行きが見通せない中、企業の設備投資に鈍化がみられる。仕入では半導体生産設備に部品が大量に流れ、入手困難なものが出ている。北米寒波によるプラスチック原材料不足の影響も出てきた」(機械・同部品)、「昨年4月はコロナの影響が大きく、通常年と比較すると大幅減。今年の3月から徐々に製造数量が戻っていたが、まん延防止等重点措置が出た事で再度状況が悪化」(酒類)、「材料関係の値上がり大きい」(金属加工機械)、「同一労働・同一賃金により労働条件を細分化せざるを得ず、少人数の会社故に生産性の上がる人員配置が難しい」(自動車付属品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「昨年は緊急事態宣言発令でスーパー需要が大きく上がったため、昨年比売上12%減。一昨年比では数%増」(各種食料品小売)、「前年、休業・時短営業した分、増加に転じている。衣料品は徐々に上向き傾向。まん延防止等重点措置以降、お客様の流れは大きく変わらず。食品はプチ贅沢や地域フェア、家飲み関連が好調」(大型小売店)、「コロナ禍でも売上好調な得意先はあり、自社で商品を消費者に売ることはもちろん、露出先を見極めていきたい」(農畜産物・水産物卸売)、「卸の焼菓子関連が好調。店頭は厳しい」(洋菓子店)、「卵の値上がりが気になる」(洋菓子店)、「昨年の下落が著しく、通常で考えると3割減。今後の目途立たず」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「一昔前まではあった、3月年度末景気の恩恵が減っていると感じる」(建築材料卸売)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「減税で消費者の購買意欲を高めてほしい」(そば・うどん店)、「ライフワークの変化でファミリー向けを中心に、一部値上げ物件があった。商業向けテナントは、2階以上の空中階の空きが目立ち始めた」(不動産賃貸・管理)、「酒類の提供禁止の措置により、GW中の予約はキャンセル続出」(日本料理)、「昨年の緊急事態宣言期間中より売上増も、訪日外国人客の減少、ビジネス出張の差し控え、レジャーの自粛傾向により稼働率は一昨年をはるかに下回る。宴席も会食需要や大型宴会の減少で苦戦が続く」(ホテル)、「テレワークを導入して1年が経ち、顧客との打ち合わせはZOOMと対面の両方で行なっているが、コロナを理由に反応は厳しい」(広告代理)、「テレワーク等が増え、社内環境システムやWEBへ資金投入するお客様が減っている」(情報処理・提供サービス)、「昨年1年間は通信教育やオンライン講座で学習したが、対面形式の授業を求めて塾に入り直す生徒が多い」(学習塾)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲46.6	▲21.0	▲69.5	▲50.0	▲38.8
12月	▲46.7	▲11.1	▲66.6	▲59.3	▲33.3
1月	▲54.9	▲42.8	▲72.0	▲57.1	▲41.1
2月	▲43.4	▲21.0	▲65.2	▲50.0	▲27.7
3月	▲30.5	▲25.0	▲52.0	▲31.2	▲5.5
4月	▲12.7	▲27.7	▲24.0	▲12.1	△16.6
見通し	▲29.7	▲44.4	▲24.0	▲33.3	▲16.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.6	▲ 31.9	▲ 17.0	▲ 31.9	▲ 32.9	▲ 26.5	△ 12.7	△ 10.6
建設	▲ 27.7	▲ 38.8	▲ 33.3	▲ 38.8	▲ 27.7	▲ 27.7	△ 27.7	△ 27.7
製造	▲ 36.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 48.0	▲ 48.0	▲ 4.0	▲ 8.0
卸・小売	△ 6.0	▲ 42.4	▲ 9.0	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 21.2	△ 18.1	△ 18.1
サービス	△ 11.1	▲ 22.2	△ 16.6	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 5.5	△ 11.1	△ 5.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.7	▲ 29.7	▲ 11.7	▲ 21.2
建設	▲ 27.7	▲ 44.4	▲ 11.1	▲ 16.6
製造	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 20.0	▲ 28.0
卸・小売	▲ 12.1	▲ 33.3	▲ 15.1	▲ 24.2
サービス	△ 16.6	▲ 16.6	△ 5.5	▲ 11.1

## 令和3年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.7に対し、「CCI-LOBO」が▲25.3で柏の方がマイナス幅が12.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.6に対し、「CCI-LOBO」が▲16.3で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.0に対し、「CCI-LOBO」が▲22.1で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.9に対し、「CCI-LOBO」が▲31.7で柏の方がマイナス幅が1.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△12.7に対し、「CCI-LOBO」が△8.0で柏の方がプラス幅が4.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.7に対し、「CCI-LOBO」が▲16.2で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

【令和3年4月業種別業界内トピックス】


業種別	概況	トピック	業種
建設業	外出自粛によるコミュニケーション不足は情報収集不足に直結していると感じる。民間工事の発注数は昨年、一昨年比べて少ない。	情報収集不足 民間工事発注数減少	塗装工事業
	初年度の仕事が早いので、仕事の切れ間が少なくて済む。	仕事の切れ間なし	土木工事業
	働き方改革を推し進め、4月は週休2日を取ることが出来た。	週休2日実現	畳工事請負・畳製造販売業
	新型コロナウイルスの影響で、室内リフォームが少ない。外部の仕事は変わりなくある。	室内リフォーム減少	職別工事業
製造業	社員、パートともにベースアップを実施してモチベーションアップを図る。材料の入手困難は前月同様。単価は上昇傾向。営業活動の制限が続くため新規顧客開拓がポイントとなる。WEBサイトの立上げをさらに加速。従業員全員に万歩計を配布して健康増進を楽しみながら進める。	ベースアップ実施 材料が入手困難 新規顧客開拓	金属製品
	依然としてコロナ禍の影響を強く受けており、引き合いは頂くものの、なかなか受注にはつながっていない。また、顧客の担当者が在宅ワークのため、タイムリーな連絡が取れないことも多く、商談が全体的にスローダウンしている。	商談のスロー化	電子応用装置製造業
	多方面のリスクが増加傾向で不透明感有り。BCPの必要性も大きくなると思う。	BCPの必要性	金属素形材製品製造業
	新型コロナの影響で激減している化粧品、特に口紅容器の受注が全くと言っていいほど回復の兆しが見られない。頼みの網の医療品容器も顧客の生産ラインの人員がコロナの影響で集まらず、受注に至らない。	口紅容器受注回復せず	プラスチック加工
	新型コロナウイルスの影響でインバウンド頼みの業績悪化による影響が大きい。食品では内食が伸びているものの先行きが見通せない中で、企業の設備投資に鈍化がみられる。仕入では半導体生産設備に部品が大量に流れ、入手困難なものが出てきている。北米寒波の影響でプラスチック原材料不足の影響も急に出てきた。	設備投資が鈍化 半導体設備部品が入手困難 プラスチック原材料不足	機械・同部品製造業
	昨年の4月頃から新型コロナウイルスの影響を受けている為、前年対比では大きく落ちていない。しかし、通常年と比較すると大幅な減少となっている。3月頃から徐々に製造数量も戻ってきていたが、都市圏にまん延防止等重点措置が発出され、緊急事態宣言も見えてきた時点より再度状況は悪化してきている。新型コロナウイルスの影響で酒類業界はまだまだ先が読めない状況が続くそう。	まん延防止等重点措置の影響	酒類製造業
	材料関係の値上がり大きい。	材料値上がり	金属加工機械製造業
	年度末が終わり、売上激減。新規売上は期待できず、公助から始まり自助に移行の現在、基盤が脆弱で切替が困難である。	売上激減	印刷業
	売上は戻りつつあるが、テレワークなど在宅勤務が今以上に進むと、主力製品が減少に転じる可能性は大きい。生産部門の人の補充タイミングが厳しい状況になった。	売上回復基調	鉄鋼業
	今月、社員交代があった。これを機会に新メンバーと共に、職場環境の改善を図りたい。	社員交代	印刷業
	3月は年度末の一時的な駆け込み需要があったが、4月に入って例年以上の落ち込みが予想される。働き方改革法の施行により、業務の見直しや正社員の休日のシフト制、非正規社員の労働時間の変更等が必要となった。また、同一労働・同一賃金への対応の為に、細分化された労働条件を作らざるを得ず、少人数の会社故に組織変更も含め生産性の上がる人員配置をすることが難しい。	働き方改革 同一労働・同一賃金	自動車付属品製造業
	卸・小売業	昨年比売上は上昇しているが、昨年の下落が著しいため、通常で考えると3割減。第4波の影響は確実で、今後どのようになるか目途が立たない。	売上3割減 先行き不透明
一昔前まではあった、3月年度末景気の恩恵が減少してきていると感じる。		年度末景気減少	建築材料卸売業
卸の焼菓子関連が好調。店頭は相変わらず厳しい。		焼菓子の卸売好調 店頭販売不調	洋菓子店
昨年は緊急事態宣言が発令され、スーパーマーケットの需要は大きく上がり、その反動で今年は売上が12%程減少している。一昨年比では数%の増加。今後、干菓子の緊急事態宣言発令も視野に入れ、企業は生き残りをかけなければならないだろう。		売上昨年比12%減 (昨年は初めて緊急事態宣言発出)	各種食料品小売業
前年度は一部業種で休業・時短営業していたため、今年度はその分が増に転じている。また、衣料品も徐々に上向き傾向。まん延防止等重点措置以降のお客様の流れは大きく変わらない。食品はプチ贅沢や地域フェア、イェ飲み関連商品が好調。		巣ごもり需要	大型小売店
昨年の休業要請ほどではないが、飲食店への規制がまた厳しくなってきた。		飲食店への規制拡大	各種商品小売業
3か月先の見通しについて、スーパー等、量販店については、昨年ほどコロナが売上に大きく影響することはないと思う。ただ、首都圏の百貨店テナントなどの影響はあるだろうと減少の見通しとした。コロナ禍でも売上好調な得意先はあり、自社で商品をエンドユーザーに売ることはもちろん、露出先を見極めていきたい。		販路先の見極め	農畜産物・水産物卸売業
昨年は緊急事態宣言により4/4、5及び4/8～5/13まで休業していたため、4月はほとんど営業できておらず、前年同月と比較すると5.5倍の売上増となるため、全く意味のない数字となる。よって、数字は一昨対との比較を前提としております。		昨年の緊急事態宣言により 単純な売上比較できず	各種商品小売業
卵の値上がりが気になる。		卵値上がり	洋菓子店
その他		年々税金が高くなっているの、せめて消費税の減税をしてもらい、消費者の購買意欲を高めてほしい。	減税
	コロナの影響大、今後も好転を期待する	好転に期待	ソフトウェア業
	賃貸住宅市況は、ライフワークの変化でファミリー向けを中心に追い風となり、一部値上げ物件もあった。しかしながら、学生向け賃貸物件は、以前厳しい状態が続いている。商業向けテナントは、2階以上の空中階について、空きが目立ち始めたように見受けられる。	ファミリー向け賃貸住宅好調 学生向け賃貸住宅不調	不動産賃貸・管理業
	一般のお客様からの問合せ、建売業者からの反響は増加。価額は値上がり気味で、成約件数も増加。コロナの影響で、狭い住宅から少しでも広い住宅へ住み替えたいという希望によるものだと思う。先行きは不透明で読めない。	問合せ、反響増加 先行き不透明	不動産管理業
	テレワークを充実させたいので機器を紹介してほしい。	テレワーク機器紹介希望	不動産賃貸業
	昨年の緊急事態宣言時と同様に厳しい状況が続いている。今回の酒類の提供の禁止の措置により、GW中の予約はキャンセル続出。	GW予約キャンセル続出	日本料理











【令和3年4月業種別業界内トピックス】











サービス業	<p>昨年同時期は緊急事態宣言期間中であつたため売上自体は増加したが、訪日外国人客(インバウンド)の減少、ビジネス出張の差し控え、レジャーの自粛傾向により稼働率は一昨年をはるかに下回る。宴席も会食需要減、密集を避ける為大型宴会の減少と苦戦が続く。</p>	ホテル稼働率大幅減少 宴席減少	ホテル
	<p>昨年同月に比べ4月は好転したものの、納品予定のものがスライドして同月にまとまったため、根本的な解決には至っていない。まんえん防止措置など、コロナにおける取引先の状況は依然厳しく、広告費への出稿が増えるとは考えづらい。テレワークを導入して1年が経ち、顧客との打合わせはZOOMと対面どちらでも行うことは出来ているが、コロナを理由に顧客の反応は厳しい状況が続く。</p>	顧客反応鈍い	広告代理業
	<p>新型コロナウイルス感染症の影響によりテレワーク等が増えたことで、社内環境におけるシステムやWEB等への資金を投入するお客様が減っている。</p>	社内環境システム関連の仕事減少	情報処理・提供サービス
	<p>コロナの影響で量で稼ぐビジネスをしたところが悪くなってきた。</p>	コロナの影響	税理士
	<p>昨年は新規入会者が最も多くなる3~4月の時期に全く動きが無く大いに不安だったが、今年は順調に増えてきている。とくに、昨年1年間は塾に通わず通信教育やオンラインの講座などで学習してきたが、通信教育やオンライン授業に限界を感じて、対面形式の授業を求めて塾に入り直す生徒が多くなっている。</p>	入会者増加	学習塾











# 令和3年4月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較











景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
-------	--	---	--	--	--











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.7	 ▲ 27.7	 ▲ 24.0	 ▲ 12.1	 16.6
CCI—LOBO	 ▲ 25.3	 ▲ 15.5	 ▲ 24.1	 ▲ 23.5	 ▲ 33.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.6	 ▲ 27.7	 ▲ 36.0	 6.0	 11.1
CCI—LOBO	 ▲ 16.3	 ▲ 16.6	 ▲ 18.8	 ▲ 10.6	 ▲ 19.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.0	 ▲ 33.3	 ▲ 40.0	 ▲ 9.0	 16.6
CCI—LOBO	 ▲ 22.1	 ▲ 18.3	 ▲ 22.9	 ▲ 17.8	 ▲ 26.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.9	 ▲ 27.7	 ▲ 48.0	 ▲ 36.3	 ▲ 11.1
CCI—LOBO	 ▲ 31.7	 ▲ 42.1	 ▲ 33.1	 ▲ 25.1	 ▲ 27.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.7	 27.7	 ▲ 4.0	 18.1	 11.1
CCI—LOBO	 8.0	 21.8	 ▲ 0.4	 11.3	 6.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.7	 ▲ 11.1	 ▲ 20.0	 ▲ 15.1	 5.5
CCI—LOBO	 ▲ 16.2	 ▲ 6.6	 ▲ 13.6	 ▲ 17.4	 ▲ 26.0

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2021年4月14日～20日

調査対象：全国の338商工会議所が2,752企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、回復を継続も、厳しさ残る。先行きは感染再拡大に伴い、警戒感強まる**

4月の全産業合計の業況DIは、▲25.3と、前月から+10.0ポイントの改善。中国・米国などの海外経済の回復に伴い、生産増が続く半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業が牽引したほか、巣ごもり需要で売上が堅調な小売業が全体を押し上げた。一方、まん延防止等重点措置の実施に伴う営業時間短縮や観光需要低迷により、外食・観光関連は厳しい状況が続く。オンライン活用や新事業展開などが進む中、業種・業態によって対応の難しさが指摘されるほか、原材料費上昇によるコスト負担増加を不安視する声も多く、中小企業の景況感は回復基調が続くものの、厳しさが残る。

先行きについては、先行き見通しDIが▲29.0（今月比▲3.7ポイント）と悪化を見込む。ワクチンによる感染抑制効果や、海外経済回復に伴う自動車や電子部品

関連の生産増に期待する声が聞かれる。一方、変異株の感染再拡大による活動制約が続く中、客足減少や製品・サービスの受注・売上減少を懸念する企業は多い。さらに原材料費や燃料費の上昇による採算悪化への不安もあり、先行きに対して厳しい見方が広がっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「リフォームや店舗のリニューアル工事の案件が増えてきているが、米国の新築住宅の需要急増やコンテナ不足を背景に輸入木材の仕入価格が上昇しており、今後の収益圧迫を懸念している」（一般工事業、「若手従業員確保のため、昇給や労働時間短縮など待遇改善を検討しているが、民間工事減少など先行き不透明な経

営環境で進められずにいる」（管工事業）

【製造業】「ネット販売や業績が好調な取引先からの受注により売上を確保しているが、砂糖の仕入価格が上昇し、採算は悪化。今後、新商品や現行商品のリニューアルに伴う価格転嫁を進めていきたい」（調味料製造業、「鋼材価格の値上げでコスト増となっているが、物流がストップしていた前年同月比では売上・採算ともに改善」（自動車部品製造業）

【卸売業】「前年同月は新茶の販売前の緊急事態宣言で売上が落ち込んだが、今年は巣ごもりによる家庭内の需要増加やネット販売の受注増加により、売上は改善。今年の新茶は好天により品質がよいため、予約特典や贈答用の販促に力を入れ、さらなる売上改善を図りたい」（茶類卸売業、「吸音材や絶縁材料など、自動車や電子部品製造業向けの製品の引き合いが伸びており、売上は改善」（繊維品卸売業）

【小売業】「緊急事態宣言による買いだめなどの影響で売上が大幅に増加した前年同月比では売上・採算ともに悪化」（スーパー）、「家電製品やインテリア、園芸用品などの在宅時間を充実させる製品の売上が堅調に推移しており、業況は改善。来月にかけて花や野菜の苗の品揃えを強化し、春のガーデニング需要の取り込みを図る」（ホームセンター）

【サービス業】「主要顧客である自動車関連の生産回復に伴い、輸送量が持ち直している」（運送業）、「緊急事態宣言の影響により、90%近く売上が落ち込んだ前年同月比では売上は改善。ただし、例年であれば大きな売上を見込める歓送迎会などの宴会予約がほぼゼロとなっており、依然厳しい状況が続いている」（宿泊業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲45.8	▲26.8	▲54.1	▲39.0	▲41.5	▲56.1
12月	▲46.1	▲26.9	▲53.4	▲45.3	▲45.5	▲53.0
1月	▲49.5	▲27.1	▲48.5	▲49.0	▲49.5	▲64.7
2月	▲46.8	▲24.9	▲44.8	▲47.7	▲45.8	▲63.0
3月	▲35.3	▲18.4	▲33.6	▲35.0	▲33.9	▲48.5
4月	▲25.3	▲15.5	▲24.1	▲27.0	▲23.5	▲33.5
見通し	▲29.0	▲20.6	▲23.5	▲31.5	▲32.9	▲35.6



# 柏の景気情報 (令和3年4月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

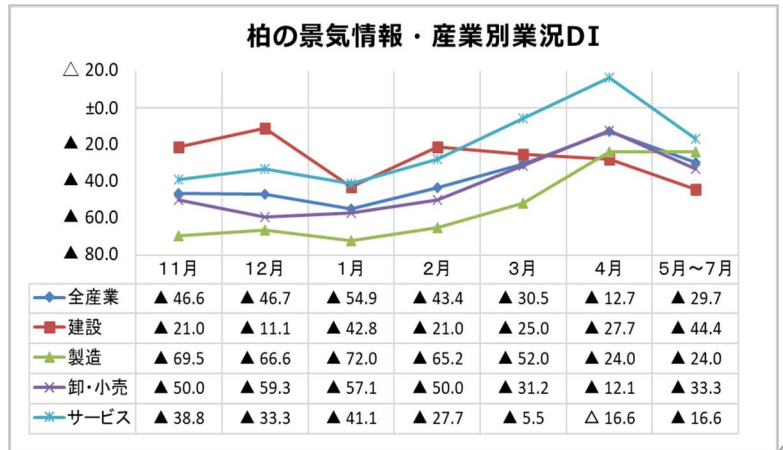
調査期間：令和3年4月22日～5月10日 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング、回答数94件

### 全産業DIは改善も予断許さず。感染拡大やまん延防止等重点措置の延長により、先行きも厳しい見方

4月の全産業合計のDI値(前年同月(令和2年4月)は全国で緊急事態宣言発令中)は、▲12.7(前月水準▲30.5)となり、マイナス幅が17.8ポイント縮小した。

不動産業からは住居の住み替え需要が増加しており好調のコメントが寄せられた。一方で、テレワークの定着・ZOOMなど非接触営業による商談の遅れや反応の鈍さ、まん延防止等重点措置の実施等により、飲食店からはGWの予約キャンセル続出、ホテル業からは稼働率の低下についてコメントが寄せられた。また、製造業では原材料の不足、値上げについてコメントが多い。

先行きDIは▲29.7(今月比▲17)と、感染拡大、まん延防止措置の延長により厳しい見方である。

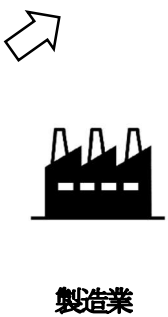


## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「外出自粛によるコミュニケーション不足は情報収集不足に直結していると感じる。民間工事の発注数は昨年、一昨年に比べて少ない」(塗装工事)、「初年度の仕事が早く、仕事の切れ間が少なく済む」(土木工事業)、「働き方改革を推し進め、4月は週休2日を取ることができた」(畳)、「コロナの影響で、室内リフォームが少ない。外部の仕事は変わらない」(職別工事)



「社員、パートともにベースアップを実施しモチベーションアップを図る。材料は入手困難で、単価は上昇傾向。従業員全員に万歩計を配布して健康増進を楽しみながら進める」(金属製品)、「引き合いはあるが、なかなか受注につながらない。顧客の担当者が在宅ワークでタイムリーな連絡が取れず、商談が全体的にスローダウン」(電子応用装置)、「リスクが多方面に増加し、BCPの必要性が大きくなると思う」(金属素材材製品)、「口紅容器の受注が全く回復しない。コロナの影響で顧客の生産ラインの人員が集まらず、頼みの綱の医療品容器も受注に至らない」(プラスチック加工)、「インバウンド頼みの業績悪化による影響が大きい。食品では内食が伸びている。先行きが見通せない中、企業の設備投資に鈍化がみられる。仕入では半導体生産設備に部品が大量に流れ、入手困難なものが出ている。北米寒波によるプラスチック原材料不足の影響も出てきた」(機械・同部品)、「昨年4月はコロナの影響が大きく、通常年と比較すると大幅減。今年の3月から徐々に製造数量が戻っていたが、まん延防止等重点措置が出た事で再度状況が悪化」(酒類)、「材料関係の値上がり大きい」(金属加工機械)、「同一労働・同一賃金により労働条件を細分化せざるを得ず、少人数の会社故に生産性の上がる人員配置が難しい」(自動車付属品)



「昨年は緊急事態宣言発令でスーパー需要が大きく上がったため、昨年比売上12%減。一昨年比では数%増」(各種食料品小売)、「前年、休業・時短営業した分、増加に転じている。衣料品は徐々に上向き傾向。まん延防止等重点措置以降、お客様の流れは大きく変わらず。食品はプチ贅沢や地域フェア、家飲み関連が好調」(大型小売店)、「コロナ禍でも売上好調な得意先はあり、自社で商品を消費者に売るとはもちろん、露出先を見極めていきたい」(農畜産物・水産物卸売)、「卸の焼菓子関連が好調。店頭は厳しい」(洋菓子店)、「卵の値上がりが気になる」(洋菓子店)、「昨年の下落が著しく、通常で考えると3割減。今後の目途立たず」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「一昔前まではあった、3月年度末景気の恩恵が減っていると感じる」(建築材料卸売)



「減税で消費者の購買意欲を高めてほしい」(そば・うどん店)、「ライフワークの変化でファミリー向けを中心に、一部値上げ物件があった。商業向けテナントは、2階以上の空中階の空きが目立ち始めた」(不動産賃貸・管理)、「酒類の提供禁止の措置により、GW中の予約はキャンセル続出」(日本料理)、「昨年の緊急事態宣言期間中より売上増も、訪日外国人客の減少、ビジネス出張の差し控え、レジャーの自粛傾向により稼働率は一昨年をはるかに下回る。宴席も会食需要や大型宴会の減少で苦戦が続く」(ホテル)、「テレワークを導入して1年が経ち、顧客との打ち合わせはZOOMと対面の両方で行なっているが、コロナを理由に反応は厳しい」(広告代理)、「テレワーク等が増え、社内環境システムやWEBへ資金投入するお客様が減っている」(情報処理・提供サービス)、「昨年1年間は通信教育やオンライン講座で学習したが、対面形式の授業を求めて塾に入り直す生徒が多い」(学習塾)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲12.7に対し、「CCI-LOBO」が▲25.3で柏の方がマイナス幅が12.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。